

夢のつばさプロジェクト 2013 夏キャンプ報告

「夢のつばさプロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、「お茶の水学術事業会」を中心に「遺伝カウンセリング・ジャパン」、「全国てらこやネットワーク」「ウェアラブル環境情報ネット推進機構」のNPO法人4団体の協力によって進められている事業です。

このプロジェクトは、立ち上げ以来、多くの団体や数百名の方々から温かいご支援を賜っています。毎年続けてご寄付を下される方も多く、また毎回のキャンプには、スタッフとして多くの方々が貴重な時間を割いてボランティア参加して下さいます。東北から参加する子どもの送迎を毎回担当して下さいる方や、豊富な人脈を駆使して企画作りに参加して下さいる方、勤務をやりくりして駆けつけて下さる看護師さん、会計業務をお手伝い下さる方や、キャンプ中の緊急移動手段のためにと車を用意して参加下さる方など、様々な方に支えられています。ボランティアの学生達も、毎回、心を込めて活躍してくれています。

2013 年度夏キャンプ

【実施期間】2013年8月6日～9日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所奥多摩園(青梅市)

【参加内訳】子ども23名、学生ボランティア27名、その他スタッフ・協力者16名

【主な内容】

8月6日	開会式、施設探索宝探しゲーム
8月7日	敷島製パン埼玉工場、癌研究会有明病院見学
8月8日	朝の勉強会・レポート作成、運動会・水遊び、音楽会(フルート四重奏・ピアノ)
8月9日	閉会式、写真スライドショー、保養所の方々へ御礼

本活動も3年目となり、東北3県の教育委員会や児童相談所の担当の方たちとの連携も順調で、すぐに20名の募集人員を上回る応募がありました。今回は思い切って27名を受入れることを決めて準備しましたが、直前になって学校行事による兄弟のキャンセルなども出て、23名での催行(小1～高2)となりました。内訳は、小学生14名・中学生6名・高校生3名で、岩手県より1名、宮城県より16名、福島県より4名(および現在神奈川県、長野県居住の各1名)の参加となっています。

子どもたちは、活動当初に比べて表情も言動も格段に明るくなりました。今回はキャリア教育の一環として、工場と病院の見学を盛り込みました。社会にはどのような仕事があるのか、自分の成長の先を心に描いて、日常の学びへの励みとして欲しいと企画しています。

埼玉県比企郡川島町にある敷島製パン工場では、工場長はじめ多くの社員の方たちが出迎えて下さり、衛生面への厳しい取組みや機械化と経験が双輪となっておいしいパンを作っていることを懸命に伝えてくださいました。がん研有明病院では、患者さんを治療し癒すために、事務業務から医療まで、多くの職種のスタ

ップがチームとなって働いていること、そしてそれらの資格取得のための道筋など、わかりやすく、心温まる解説がありました。普段入り込むことのできないバックヤードの見学もあり、子どもたちだけでなく、学生や大人にとっても貴重な体験となりました。



その他、奥多摩の豊かな自然を背景に、宿舎の広い庭で水遊びや運動会、フルートとピアノの演奏会など、心と体を十分に楽しませる企画も行いました。

子どもたちは、口々に「また来るね」と心を残して帰って行きました。スタッフ一同、子どもたちが自らを育て、心豊かな人に成長していけるよう、今後も寄り添って行きたいと決意を新たにしています。



大学生たちは、早くも冬のキャンプに向けて、集会の日程を組んで張り切っています。皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。